

小括

代々木公園＋明治神宮の視覚領域の境界をまとめると以下のようになる。

場所	視覚領域の類型	江戸期の土地利用	視覚領域の境界
1	a. 太い線分	百姓地	高架（近代）
2	e. 長短の線分の反復	百姓地	なし
3	f. 点在	武家屋敷の一部	なし
4	a. 太い線分	百姓地	なし
5	b. 貫通	百姓地	なし
6	a. 太い線分	百姓地	なし
7	d. 短い線分の反復	百姓地	街路パターンの変化（地形変化）

fig. 4. 3. 33
代々木公園＋明治神宮の
視覚領域の境界一覧

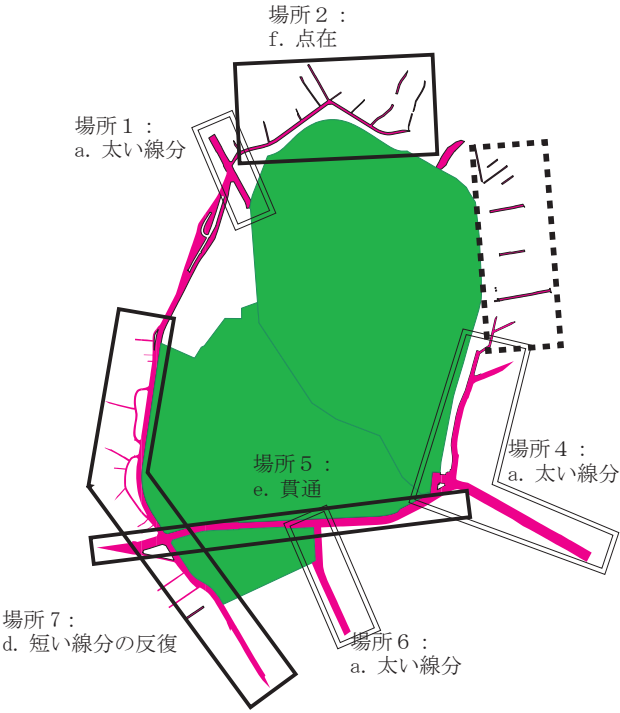
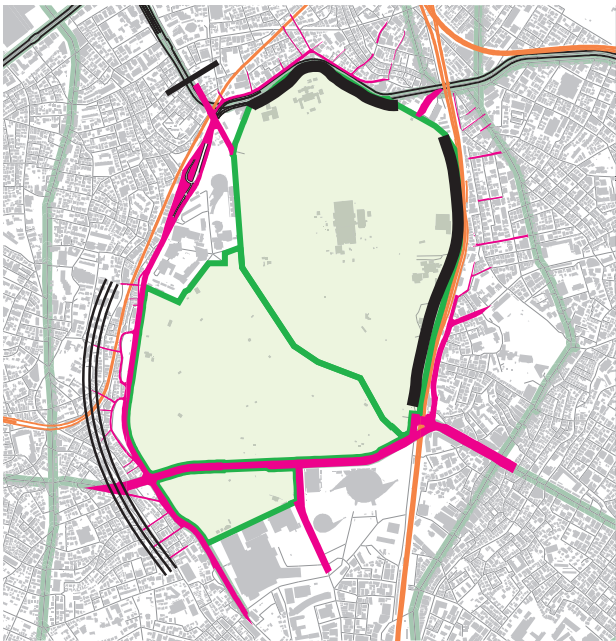


fig4. 3. 4 代々木公園＋明治神宮の視覚領域の分類
s = 1 : 25000



地形による街路パターンの切り替わり
公園がインフラに接している
インフラによる視覚領域の切れ目（近代）
fig. 4. 3. 34 視覚領域と境界
1 : 25000

西側は江戸期には百姓地で、低地のため宅地化しづらい場所であった。街路パターンが整っておらず、密集市街地となり視覚領域も小さい。北、東側はインフラが面しており、公園が周囲と繋がりを持っていないが、奥まった静かな場所であることから高級住宅地となっている。

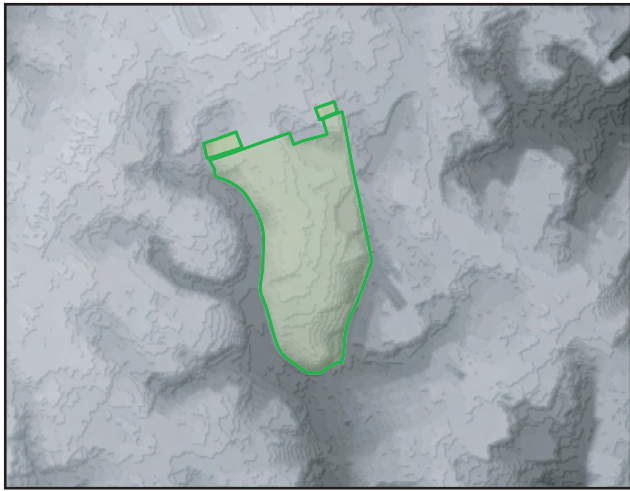


fig. 4. 4. 1 青山霊園と地形
1 : 25000

4. 4 青山霊園

■地形との関係

霊園は舌上に伸びた台地に位置する。北側は地形の変化がないが、東西、南側は谷となり、地形の切れ目が境界となっていることがわかる。

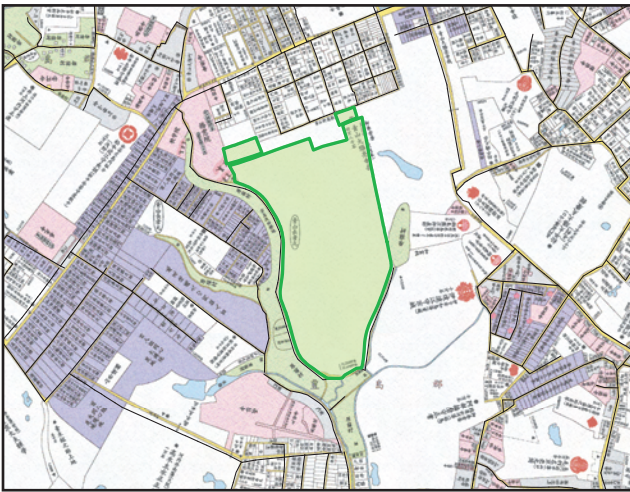


fig. 4. 4. 2 江戸時代の青山霊園周辺
1 : 25000

■江戸時代の青山霊園周辺

青山霊園のある場所は、青山の地名のもととなった、青山家の武家屋敷であった。青山霊園の下半分を囲む場所は側は地形が谷状の低地であるため、宅地化されていない。北側には街道があり、お屋敷が短冊状の街路パターンのなかに並んでいる。東側は谷を挟んで武家屋敷が配されている。

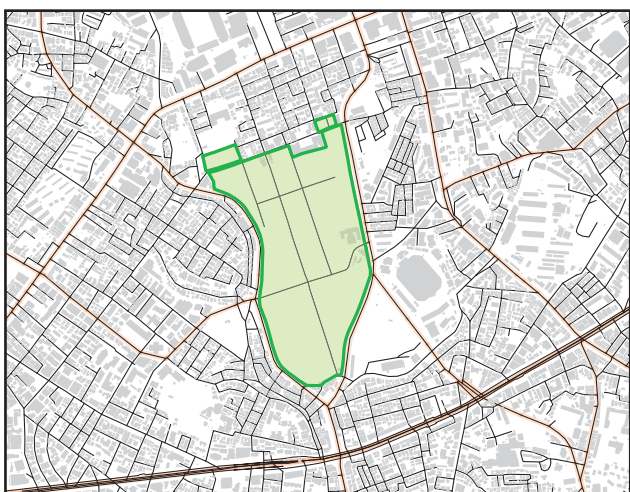


fig. 4. 4. 1 現在の青山霊園周辺
1 : 25000

■現在の青山霊園周辺

明治5年(1872)に公共団体の管理するもっとも古い墓地となった。公園化整備が進められ、昭和10年(1935年)に現在の形の青山霊園となった。

園内を十字状に道路が通され、周辺から霊園を通り抜ける道がある。谷状の地形の底に幹線道路が通され、青山霊園の下半分が面している。北側は武家屋敷の一部が学校となり、江戸時代の街路パターンを引き継いだ住宅街が面している。東側の武家屋敷だった場所も一部公園となっている。

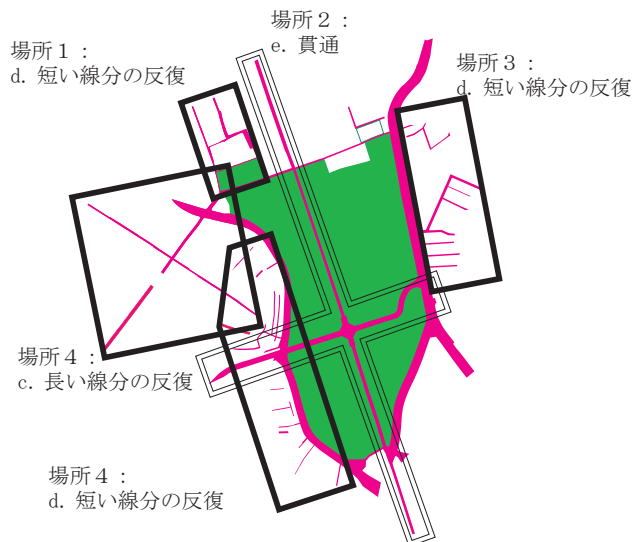


fig4. 4.4 青山霊園の視覚領域の分類
s = 1 : 25000

■視覚領域の類型

青山霊園の視覚領域は、右図のように分けられる。

場所1 : b. 貫通

場所2 : d. 短い線分の反復

場所3 : e. 長短の線分の反復

場所4 : c. 長い線分の反復

○場所1 : d. 短い線分の反復

分析A

江戸期からある街道での街路パターンの切り替わり

学校のグラウンド越しに緑が見え、江戸時代の街道で現在の青山通りで視覚領域は切れている。

分析B

公園：低いフェンス

周辺：カフェ

公園に接する道路に面してカフェがあり、青山霊園に面している環境を活かしている。霊園と道路の境界に低いフェンスしかないので、道路と霊園に一体感がある。

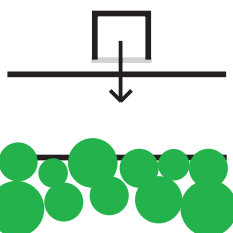


fig4. 4.9
霊園に面したカフェ

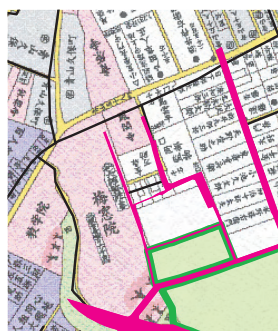


fig4. 4.5 江戸期と視覚領域
s = 1 : 10000



fig4. 4.6 現在と視覚領域
s = 1 : 10000



fig4. 4.7
霊園に向かう道路からの
緑の見え



fig4. 4.8
霊園に接する道路からの緑
の見え



fig4. 4. 10
江戸期と視覚領域
s = 1 : 15000

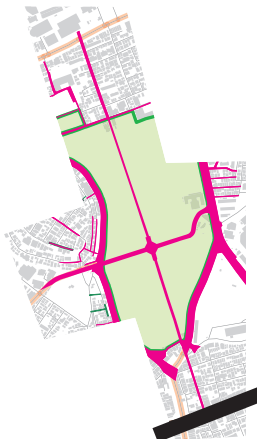


fig4. 4. 11
現在と視覚領域
s = 1 : 15000



fig4. 4. 12 霊園に向かう道路
からの緑の見え



fig4. 4. 13
霊園を貫通する道路



fig4. 4. 14 商業分布
s = 1 : 15000

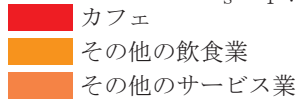


fig4. 4. 16
江戸期と視覚領域
s = 1 : 15000

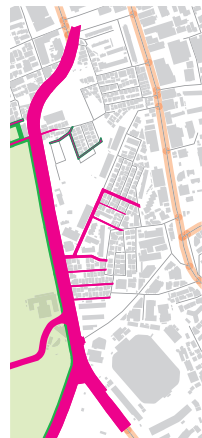


fig4. 4. 17
現在と視覚領域
s = 1 : 15000



fig4. 4. 18
霊園に向かう道路からの公
園の見え

○場所 2 : e. 貫通

分析 A

江戸期からある街道での街路パターンの切り替わり、高速道路の高架

北側は江戸期の街道で現在の青山通りで街路パターンが途切れ、視覚領域も切れる。南側では高速道路の高架により途切れる。東、西両側では視覚領域の境界となる要素はない。

分析 B

公園：街路が反復

周辺：カフェなどの商業分布

北側では、霊園を通り抜ける道路に沿って商業が並んでおり、カフェもいくつかある。霊園との連続性がこの場所の雰囲気にも貢献しているといえるかもしれない。しかし、この通りからひとつ道を入ると料亭があったり、高級住宅地となり、奥まった場所になる。

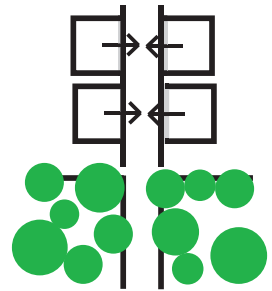


fig4. 4. 15
公園へと繋がる道に商業が集まる

○場所 3 : d. 短い線分の反復

分析 A

規則性なし

武家屋敷だった場所を宅地に分割するためにできた道路である。

分析 B

公園：斜面

周辺：幹線道路

地形の切れ目が公園の境界になっており、周辺と繋がりはない。



fig4. 4. 19
江戸期と視覚領域
s = 1 : 15000

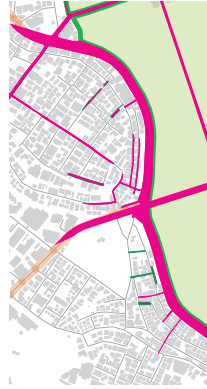


fig4. 4. 20
現在と視覚領域
s = 1 : 15000



fig4. 4. 21
地形と視覚領域
s = 1 : 15000



fig4. 4. 22
公園に向かう道路



fig4. 4. 23
公園に面する道路

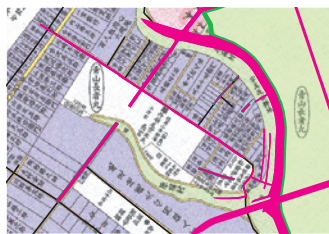


fig4. 4. 24
江戸期と視覚領域
s = 1 : 15000

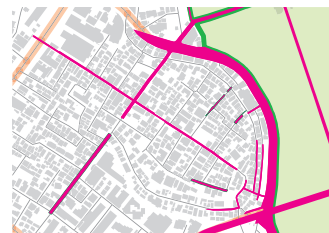


fig4. 4. 25
現在と視覚領域
s = 1 : 15000



fig4. 4. 26
公園に向かう道路からの
緑の見え

○場所 4 : c. 短い線分の反復

分析 A

地形による街路パターンの変化

公園と接しているのが谷地なので、谷地に立つ建物を越えて離れた台地から公園を見ることができる。谷地の視覚領域は台地との地形の切れ目で街路パターンが切り替わり、途切れている。

分析 B

公園：斜面

周辺：幹線道路

地形の変化が公園の境界になっている。幹線道路に面しているが、公園とは地形の変化により切れている。

○場所 5 : e. 長い線分の反復

分析 A

江戸期からある街道での街路パターンの切り替わり

公園と接しているのが谷地なので、谷地に立つ建物を越えて離れた台地から公園を見ることができる。尾根道が街道に突き当たるところで街路パターンが変わり、視覚領域が途切れる。

分析 B

公園と都市は接していない。



fig4. 4. 27
丘と谷地の境目